

JICA-CM4TIP 通信

No.21/2017.3.20

- 国境地域での郡レベルの活動
 - シリントン郡ーフォントン郡の活動：2郡の連携合意書に署名
 - メーサイ郡での活動：子ども支援 NGO 連携ワークショップ
 - チェンコン郡での活動：ジェンダー研修

タイ・メコン地域人身取引被害者支援能力向上プロジェクト

- ◇ タイおよびメコン地域において人身取引被害者に対する支援対策が効果的に行われるために、JICA では被害者保護・自立支援に関わる多分野協働チーム (MDT) の能力強化と、支援能力向上に協力してきました。
- ◇ 当プロジェクトは2015年4月から4年間の予定で、人身取引被害者の生活再建支援のため、ケースマネージャー (CM) 等の能力向上や被害者のエンパワメント、周辺国との協働を目指す活動を実施します。

CM4TIP: Case Management for Trafficking in Persons の意味。
詳細は HP (<http://www.jica.go.jp/project/thailand/016/index.html>) をご覧ください。

国境地域での郡レベルの活動

本プロジェクト外では、国境地域での郡レベルの MDT 強化や地域のハイリスクグループへの草の根 NGO の活動も支援しています。2月にはウボンラチャタニ県とチャンパサック県の国境で接する2郡のワークショップ、チェンライ県のメーサイ郡とチェンコン郡での NGO と共催でのワークショップを行いました。



署名文書を交わすシリントン郡長 (左) とシリントン郡長 (右)

シリントン郡ーフォントン郡の活動

タイ初！国境をまたぐ2郡による反人身取引連携合意書に署名

本プロジェクトは、ウボンラチャタニ県 (タイ) とチャンパサック県 (ラオス) の人身取引対策関係者に対し、2県間の連携を促進してきました。連携促進活動をしていく中で、県同士だけではなく、郡同士の連携の必要性がうたわれ、郡レベルの活動を過去に3回行いました。そして、2月17日に反人身取引連携合意書の署名式が行われました。

シリントン郡 (タイ) とフォントン郡 (ラオス) の郡境には両国の入国管理事務所があり、人の行き来が活発です。ラオスの NGO の Village Focus International (VFI) は国境に事務所を構え、タイから強制送還されてきた人々のインタビューを行い、支援が必要な人々に対してシェルターの提供などを行っています。タイからの強制送還者は多い時では月に250人にも及ぶそうです¹。また、ウボンラチャタニ県全体でみると2016年1月から6月の間に10,911人のラオス人に対してなんらかの支援を行っており、その95%が18歳未満です。18歳未満の子どもが国

境を通過し、タイ側でなんらかの支援を受けているので、国境地域の政府関係者が人身取引のリスクを理解し、協力することは重要です。

合意書の中には、出入国審査の際に人身取引に関わっているようにみえる、もしくは被害者になるリスクが高いと思われる人々に関する情報交換を含む協力、2郡共同で啓発活動を行う、定期的に会合を開く、村のリーダーたちの能力強化研修を行う、といった項目が入っています。



ウボンラチャタニ県ーチャンパサック県国境周辺図 (出典 OpenMap に加筆)



メーサイ郡での活動

メーサイ郡はミャンマー国境に接するチェンライ県の郡で、毎日多くのミャンマー人がメーサイを通過します。

また、同国境はヘロイン、スピード (覚醒剤) などが入ってくる地点です。また、タイ人と違う文化や言語をもつ山岳民族も多い地域なので、子どもの福祉を取り巻く環境は厳しく、同郡には多くの小さな児童保護の慈善団体が存在します。

国境地域の子ども支援 NGO の連携ワークショップ

2月21-22日、同郡と周辺郡の慈善団体、地域のボランティアグループ、山岳民族反人身取引コーディネーター40名を対象にワークショップを行いました。まず、参加者間でメーサイ郡が抱える大きな課題である家庭崩壊、若年妊娠、ドラッグ中毒、ゲーム中毒などに対する活動について互いに情報交換をしました。

また、チェンライ県のシェルターと同県の性暴力緊急支援センターのソーシャルワーカーに講師として来てもらい、同県にどのような人身取引事案があり、村落で問題があった際にどの機関に相談すればいいのかを紹介しました。チェンライ県には性的搾取・労働搾取だけではなく、代理出産、子どもの物乞いなどの人身取引被害者がいて、それらの事例を取り上げてグループワークをしました。

注*1: 2017年1月25日の本部ミッションからの聞き取り



メーサイ郡の子ども支援 NGO ネットワーク研修



ネットワーク研修でのグループワーク



チェンコン郡でのジェンダー研修

講義とグループワークの後、参加者から「このような研修を受け、人身取引などの知識を身に着け、実際に児童虐待などの問題に対応している。しかし、問題に遭遇しても政府から金銭的な支援をしてもらえず、何回も同じ研修を開催する資金があるなら活動に対して予算を付けてほしい」とソーシャルワーカーにお願いしていました。

リーダー（男性）は、わざわざ「村の委員会の委員は全員男性だけど、アドバイスに従って新しく設置した人身取引対策委員会には女性を入れた」と誇らしげに説明してくれました。

研修一日目は「女らしさ」や「男らしさ」について。「男は浮気を許されるが女は許されない」などの発言が主流になり、「身近にあるジェンダーにもとづく暴力をあげてみましょう」と言っているのに、村で麻薬売人を捕まえたことを発表するリーダーもいれば「血を流すような夫婦喧嘩もあるけどすぐに仲直りしてまた殴り合いをしているんだよな〜ハハハ〜」という雰囲気で行われていた。休憩を挟んで講師と作戦を練り直し、皆の発言を講師がまとめ、それをもとに作業をするやり方になりました。

妊娠させて学校に行けなくなってしまふのはジェンダーに基づく暴力である」などと発表していたので、分かる人には分かったみたいでホッとしました。研修に参加していた若手の男性たちの発言に希望を感じましたが、道のりは遠いです。とりえず、男性リーダーには虐待されている子どもや女性の支援をしている団体の連絡先リストを渡し、村落委員会でも共有するよう依頼しました。

どのように女性リーダーをふやしていくか

山岳民族の村では、まだまだ女性の移動の自由や政治参加が制限されています。今回は村から一人ではなく、枠を二人に増やすから女性を入れてくれと頼んでも、女性を選んできたのは一つの村だけです。女性だからといってむりやり連れてきても意味がありません。研修後に CFG と話をしたところ、CFG はこれから村の女性たちを対象に職業訓練をしていく予算があり、その職業訓練活動を通して、リーダーの資質のある女性を特定し、彼女たちを育成し、少しずつ女性の反人身取引コーディネーターを増やしていくことを考えていると教えてくれました。

今回の研修を通して、同郡の山岳民族の村では、まだまだ女児や女性が従属的な立場にいたることがみられました。また今回の参加者に非識字の人がいたので、それらの村の女性たちの多くが非識字である可能性も高いです。

人身取引被害者には男性もいますが、大半は女性と子どもです。それらの問題に携わる山岳民族反人身取引コーディネーターの半数以上が女性であってほしいですし、歪んだ男女の力関係が暴力や人身取引に結び付いていることに目を向けてほしいと思いつつ、今後もプロジェクトで支援しなければならない分野だと思いました。



メーサイ郡、チェンコン郡および国境周辺図（出典 OpenMap に加筆）

チェンコン郡での活動

チェンコン郡はラオス国境に接するチェンライ県の郡です。ここはラオス人が多く入国しますし、山岳民族の多い地域です。

山岳民族反人身取引コーディネーターに対してジェンダー研修

昨年9月にプロジェクトが山岳民族反人身取引コーディネーター養成研修を行った際、村から選出されたリーダーは全員男性であったことから、地元 NGO の Center for Girls (CFG) と山岳民族反人身取引コーディネーターに女性を入れなければならないと相談してきました。山岳民族の村はまだまだ男尊女卑の文化が強く、村で重要な役職についている女性はいないので、リーダー的役割を行う反人身取引コーディネーターは自ずと男性になってしまいます。

同研修では、前回の研修に参加したアカ族、ラフ族、モン族の参加者を招き、枠を増やすので、女性を連れて来るように伝えました。しかし、村から参加した女性は一人でした。ある村の

そして自由に発言させる形態ではなく、資料を使用して、ジェンダーやジェンダーにもとづく暴力について考えてもらう方法をとったところ、何人かが非識字であることに気がつきました。つまり、講師がまとめを書いても読めないのが、今までのグループワークや作業によって導かれたコンセプトを目で見て理解することができず、話がかみ合わないのです。

二日目の講師は50歳代の男性でした。彼は「ジェンダー」や「ジェンダーに基づく暴力」について物語を語るように説明を行いました。参加者全員が前のめりになって熱心に話を聞いていたので安心していましたが、質疑応答での最初の質問が「従妹同士の結婚は許されますか？」だったのでびっくりしました。

しかし、その後のグループワークでは、「貧しい家庭が結納金目当てに娘を年配の男性に嫁がせるのはジェンダーに基づく暴力である」や「貧しい若い女の子を大人の男性が